

「感謝と夢」

二日間もの臨時休校をせざるを得ないほどの大雪に見舞われた冬が過ぎ、朝の冷え込みも和らいでまいりました。ここ栗田湾にも温かみのある風が感じられ、春の訪れを実感できるようになりました。

本日、令和五年度第三十四回卒業証書授与式を挙行するにあたり、卒業生を激励していただきますために、足下の悪い中ではありますが、海上保安学校校長先生を始め、御来賓の皆様、そして保護者等の皆様、公私ともに御多用の中、多数の皆様の御臨席を賜り、高段からではございますが、心よりお礼並びに感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとう。また、それぞれの子様をここまで育ててこられた保護者等の皆様、本日は誠におめでとうございます。卒業生の皆さんの成長は、保護者等の皆様の御支援と御指導のおかげであります。感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

令和六年一月一日、石川県能登半島地震が発災、年の初めに私たちを震撼させる惨事があり、無情にも、当たり前の日常が一瞬にして奪い去られる事実を突きつけられました。被災者の方々に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な生活を取り戻されることをお祈りいたします。また、世界に目を向けますと、残念ながらロシアによるウクライナ侵攻に加え、パレスチナ自治区ガザ地区では、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が続いています。

私たちは、こうして当たり前に生活できる環境が確保されていることに感謝しなければなりません。いつ我が身に起こるかかわからない予測困難な地震や津波、台風等による自然災害に対しても、日頃から備えておかなければなりません。今の自分の状況を当たり前と思わず、感謝の気持ちをもって受け入れられる人は、幸福度が高いと言われています。日頃から、感謝の気持ちを忘れないようにしてもらえればと思います。

さて、卒業生の皆さんが入学した令和三年は、「まん延防止等重点措置」が適用されていた時期と重なる、「コロナ禍」真っ最中でした。部活動の対外試合を含め多くの行事、実習などが中止や縮小となったこともありましたが、

しかし、皆さん一人一人が困難や試練を一つ一つ乗り越え、努力、精進してきたお陰で、この三年間、近畿地方唯一の水産・海洋系単独高校である本校で、それぞれが、普通科にはない、充実した設備や環境の中で、普通教科の授業を初めとして、地域とつながる研究活動、外国とつながる国際交流、実習船を用いた長期の航海実習や寄港地活動、潜水技術を活用した実習・外敵駆除、生き物の命と向き合った飼育管理、お客様に実習製品を提供する食の最前線の実習、資格取得、府大会・近畿大会・全国大会に留まらず国際大会にまでも活躍の範囲を広げた部活動、生徒会等の委員会活動、ボランティア活動、コンテストへの応募・挑戦・入賞などを通じて実践を深めました。なお、全国の水産・海洋系学科に在籍する生徒の学習成果や職業資格の取得、技術・技能検定等の合格・コンテストを含む大会入賞等を通じた評価がなされるマリンマイスターには、卒業生の七割が受賞、全国二千五百人ほどの中から、本校生徒が得点で一位入賞、さらに上位十一名の中に、八名も含まれる快挙もありました。

そして、それぞれが大変質の高い進路を実現するなど、目覚ましい実績を積み上げてこられたことは、私たちの誇りでもあります。社会に出る皆さんは、本校でのあらゆる経験を糧として、そして自信にして、今後もさらに、活躍してもらえることを期待しています。

ここで、アメリカメジャーリーグ 大谷翔平選手の言葉を紹介します。

それは、「人生が夢を作るんじゃない。夢が人生をつくるんだ。」であります。

夢は、「将来、実現させたいと思っっている事柄。将来の希望。思えばぐく将来の設計。」のことであります。

「GATE」を初めとする生成Ⅱが台頭する世の中、時には迷いそうになるほど、さまざまな情報が行き交う世の中になっていきますが、やはり「夢」は自分で作る物であります。

ぜひ皆さんも、大谷選手の言葉をならい、海洋高校で身に付けた力を礎に、それぞれが「夢」を持ち、自己実現を目指してほしいと思います。

後になりましたが、保護者等の皆さま、三年間、海洋高校の教育活動への御理解、さまざまな御支援、誠にありがとうございました。本日巣立つ卒業生たちにも未完成な部分を残しています。引き続き、温かく応援していただきますよう、よろしく願いたします。

結びに、本日の卒業式をもって本校から旅立つ皆さんは、これまで培ってきた力を発揮する人生のステージに向かいますが、高校を卒業しますと、さまざまな面で保護者等の方や先生たちなどの、他の人に支えてもらうことが減り、各自の判断に従って、行動や言動に、責任を持たなければならぬことが増えてきます。

常に「感謝」の気持ちをお忘れず、そして「夢」を描き、主体的に行動する自己実現を通して、人生百年時代を、より幸せに歩んでもらうことをお願いしておきます。

以上、皆さんの前途を祝し、式辞とします。

令和六年三月一日

京都府立海洋高等学校

校長 上林 秋男